

振り返る「平成の教育」〜次の時代に向けて〜

「教育的自由と学力づくり」

大阪みなみ学力研 図書 啓展（ずしよひろのぶ）

●教育困難と学力づくり

平成時代の前半に、四年生で「荒れた」子どもたちを六年生で担任したことがあります。四年生の時、私の隣のクラスの男子が、授業妨害やチャイムが鳴っても教室に入らない、授業中うろつく、教室でボールを蹴る、さらには担任の先生の目の前で弱い子を蹴る、といういじめも生まれました。そのうち、四・五・六年生のグループが形成され、団地の集会場にペンキで落書きをしたり集団万引きをしたりするなど、「荒れ」の範囲が広がっていきました。学年としても学校としても様々に手を打ちましたがなかなか好転しないまま四年生を終えました。五年生では二人の新しい先生が担任されました。苦労されていましたが、六年生になって担任が一人私にバトンタッチされました。

●子どもの実態から出発する

実態をつかむために漢字テストをしても

0点が九人、平均点が二十三点。「分数」と聞いただけでアレルギー反応を示す子どもたち。計算調査では十二桁のわり算の計算が定着していないこと、小数・分数ではさっぱり手が出ない子がかなりいることがわかりました。でもこれが彼らのこれまでの傷跡なのです。

家庭的にも恵まれず、自分たちの力だけではどうにもできない困難の中で彼らは生きています。また、テレビ視聴調査をするとう一日（平日）クラス平均五時間十二分、最短一時間半、最長は何と十時間半に上りました。今日的には、ゲームやYouTube視聴・ネットに費やす時間になるでしょう。

●子どもを変える五つの作戦

こうした子どもたちを変えていくための作戦として、次第に次の五つが確立されていきました。

1 六年生にふさわしい基礎学力が身につくように。（読み書き計算の充実、やりき

らせること。話をよく聞き、考え発表し、書く子に）

2 保護者と手をつなぎ読書・仕事・家事労働がちよっぴり好きになるように。（見えない学力）

3 行事を精選し計画的に徐々に子どもの力に依拠して進め成功させるように。

4 ごく普通の学習規律・生活規律は守れるように。

5 以上を通じ元気に学校に来るように。（休みは一年に十日以内に。夜型の生活・テレビ漬けからの脱却。近視を減らす。虫歯を治療させる。）

具体的には、例えばつぎのように取り組んだのです。

●計算のさかのぼり学習

百マスかけ算↓わり算↓最大公約数・最小公倍数・通分・分数のたし算

この力を元にして、六年の「分数のかけ算・わり算」の学習で折り紙を使ってできる・わかる授業をめざし、好成绩を得ました。「分数の乗除算は学力回復のバイパスである」ことがよく分かります。短期間でぐっと力がつくのもさすが六年生です。

九月までかかって十二桁のわり算を集

大成とする整数の四則計算はどの子もできるようにになりました。卒業までに十二桁ができるようにさせることは小学校教育の大きな責務だと今も考えています。

分数は十月十一月に集中学習。異分母分数の加減が、かつて「荒れ」の中心だった和也や、中国から来た進もできるようになりました。

五月下旬、私は「六年生になって自分が変わったな、と思うこと、がんばっていること、その理由などを書いてみよう」と呼びかけました。恵は言いません。

■六年生になって、スポーツテストの記録も伸びたし、五年の時より運動しんけいがよくなったと思う。

今までできなかった国語や算数でも、今では、国語も算数も、社会も理科も音楽も、何もかもできるようになったと思う。

なんでも「がんばって考えればぜんぶわかる」ということがわかった。

今日も、さか上がりのれんぞくのと、後ろの方で地面をけらずに、前の方で地面をければ何回でもできるとわかった。何よ

りも、竹内さんや日野さんの、

「がんばれ！」

というせいえんが私の心をはげましてくれました。そのせいえんのおかげで、さかあがりのこつがわかりました。竹内さん、日野さん、ありがとう。

五年でできなかった百人一首もできるようになり、ドッジもしている。

五年のとき、学校にくるのがいやだったけど、六年になって学校へくるのがすきになりました。

みなさんどうもありがとう。図書先生どうもありがとう。■

このような声も出る中、和也は「…べんきょうもするようになったし、あたまもよくなったし、たいどもよくなりました。でも、ぼくは四年生の時がいちばんよかったです、おもいでにのこっています。…」と書いていました。変わり始めた自分を見つ

もしんどさから逃げたい、気ままに通った四年や五年のときにもどりたい。そんな和也の気持ちが読み取れました。今あれだけががんばっている和也が、と少なからぬショックをうけました。

そんなとき事件が起こります。和也を中心とする四・五年生の時に形成された男子グループが中学生とトラブルを起こしたのです。保護者も動き、この事件をきっかけとして次第に解体に向かい、けんかやいざこざはほとんど姿を消しました。六年生の学年集団としての新しい出発であったようです。

でも落ち着いた、というのはゴールではありません。「学力づくりで友だちづくり」「学力づくりで学級づくり」がテーマになっていきました。六年生の三学期も中学校への重要な橋渡しであり、学力をきちんと定着させることが優先課題だと考え、卒業論文にも取り組みました。全員が書き上げた翌日が茶話会でした。(児童名はすべて仮名)

●まとめにかえて

平成時代前半は、教育的自由がかなりあり、学力づくりも創意あふれるものがありました。しかしここ数年、「学力テストの点数」とされ、競争の時代に入って教育的自由は奪われてきていると感じています。

次の時代には教育的自由を取り戻したいと切に願っています。